

北九州市立菊陵中学校
学校だより
1号
校長 上 赤 義 人

学校教育目標
生徒一人一人の個性や伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

3月に離任式があり、慣れ親しんだ先生方とお別れをし、4月6日に着任式がありました。これまでお世話になった先生方に感謝の心もちながら、これからまた、がんばっていきましょう。

離任者:大変お世話になりました。ありがとうございました。

個人情報保護のため、情報を一部削除しています。

※着任された先生方等については次号で紹介する予定です。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況について

今日の状況が今後どうなっていくの、いつ終息に向かうのか、今の段階ではまだ見えてきません。

日常生活を大きく制限されていることで、皆さんの中には、不安に思ったり、気分が落ち込んだり、体調のすぐれない人もいます。そんな人は、おうちの人や先生に相談してください。

次に、「感染した人や、その家族を責めないでほしい」ということです。偏見や差別につながる言動は断じて許されるものではありません。私たちが戦っている相手は、目に見えないウイルスであって、すべきことは争うことや責めるのではなく、正しく知り、正しく恐れることです。ウイルスと戦う仲間として、この危機を乗り越えましょう。

始業式のことばより

皆さん、おはようございます。そして、進級おめでとうございます。先ほどの着任式で紹介された先生方が加わり、新しい体制で菊陵中学校の令和2年度がスタートします。

新しい担任の先生やクラスの仲間が決まり、慣れるのには少しの時間が必要かもしれません。緊張もするかもしれません。しかし、こうした緊張は、今しか味わえません。新鮮な気持ちになる経験です。これまでのさまざまな経験、これからの多くの経験と同じように、この新鮮な気持ちになる経験は非常に重要なものであると校長先生は考えています。

皆さんにとっても今日のこのタイミングは、新しい学年が始まるということですので、新鮮な気持ちになる絶好のチャンスです。

そこで、新鮮な気持ちで迎えた今日の一学期の始業式において、私から皆さんに2つ「中学生の間に、こういう人になってもらいたい」という話をしておきます。

まず1つめは、「感謝」できる人(素直にありがとうと言える人)になるということです。

何事においても、感謝の気持ちは大切です。人はどんな時も人からサポートを受けているものです。そのことに気づかなければ感謝の気持ちは芽生えてきません。感謝の気持ちに気づけないのは、それを当たり前のことと思っているからではないでしょうか。当たり前のことが当たり前でなくなった時、人は初めて周りの人たちに支えられていることに気づきます。想像してみてください。「ありがとう」がいっぱいクラス・学校は素敵だとは思いませんか。

2つめは、「自立」した人(考動できる人)になってほしいということです。

コウドウです。コウドウと聞いてどんな漢字を思いましたか。自立につながるコウドウとは「考えて」「動く」という意味の考動です。何のためにそれをするのか、自分の行為で相手はどう思うのかなどをしっかりと考えて自分の行為に責任をもつことができることは、大きな成長となるはずですよ。

後日、入学してくる新入生は、先輩である皆さんの姿をよく見えています。どうか皆さんには、可愛い後輩のよき手本になってもらいたいと思います。

